

## 平成 28 年 8 月 定例教育委員会会議録

1. 日 時 平成 28 年 8 月 18 日 (木) 午後 2 時 30 分～午後 3 時 45 分

2. 場 所 市立公民館 3 階 講座室 4

3. 出席者

委員長 谷口 馨 委員長職務代理者 野口 和江 委員 中野 俊勝  
委員 河野 さおり 教育長 樋口 利彦

4. 事務局出席者

教育総務部長 小山 藤夫／学校教育部長 須賀 俊介／生涯学習部長 濱上 剛志  
総務課長 大西 謙次／学校給食課 山本 隆彦／学校管理課長 山本 千尋  
産業高校学務課長 古谷 利雄／学校教育課長 松村 慎治／人権教育課長 阪本 美奈子  
生涯学習課長 西尾 征樹／スポーツ振興課長 藪 嘉正／郷土文化室長 小堀 頼子  
図書館長 玉井 良治  
総務課参事 高井 哲也

**開会 午後 2 時 30 分**

前回会議録について承認された。本会議録署名者に河野委員を指名した。

傍聴人 0 名

**○谷口委員長**

ただいまから、8 月定例教育委員会会議を開催します。

**報告第 52 号 平成 28 年度 岸和田市水練学校のまとめについて**

**○谷口委員長**

報告第 52 号 平成 28 年度 岸和田市水練学校のまとめについて、事務局から説明をお願いします。

**○松村学校教育課長**

報告第 52 号につきましては、平成 28 年度 岸和田市水練学校のまとめについてです。

市内小学校 5、6 年生を対象に、子供たちに正しい泳法を習得させることを通じて体力の向上を図り、集団生活訓練の実をあげるために実施しました。今年度の児童出席状況は、参加児童数 557 名で、例年 550～560 名の参加です。4 日目は雨天のため中止となりましたので、9 日間のうち 8 日間の実施を行いました。一日あたりの出席児童数は、485.9 名です。進級状況につきましては、中級（クロール 25m）以上の進級児童割合が 86.5%で、昨年よりも割合は増えています。

また、上級（平泳ぎ 100m）以上の進級児童の割合は 47.4%で、こちらも昨年よりも割合は増えています。なお、今年度もたくさんの先生方にご協力いただきまして、一日平均 40 名弱でたくさんの方にご指導いただきました。8 日間通じて、大きな事故、ケガなく実施できましたので、非常に感謝しています。

#### ○中野委員

教育長から“水練学校が事故もなく終わった”というメール連絡をもらいました。子供たちの泳力向上の成果を上げていただくことと、以前に水練学校の様子を拝見したことがありますが、非常に規律ある行動をしっかりと指導していただいています。子供たちにとっては、実に得るものが多い取り組みで感謝しています。去年、一日中止がありました。中止の連絡が上手くいっていなかった」と指摘がありました。今年も一日中止がありました。その点についてはどうだったのでしょうか。

#### ○松村学校教育課長

今年度も申込みをいただいた子供たちには、“今日の水練学校はあります”、“今日の水練学校はありません”と案内する掲示板のリンク先をお知らせして、毎朝、確認をしたということです。直接の電話もありましたが、多くの連絡があったわけではありません。一定、そういうやり方で通知できたと思っています。

#### ○中野委員

去年は、「電話も通じなかった」という状況も聞きましたので、改善してもらったということですね。

#### ○松村学校教育課長

何とか伝わるように、と対応しました。

#### ○野口委員長職務代理者

参加者のうち、5年生と6年生では5年生の方が多いのでしょうか。

#### ○松村学校教育課長

学年別の資料は、今、持っていませんが、5年生の方が多いと思っています。

#### ○野口委員長職務代理者

指導員一人あたりの児童数が 12.2 名で、これ以上増えると大変かと思いますが、5年生の中級で終わった子供には、上級を目指して6年生でも行ってほしいと思いますので、“来年も頑張るよう”声掛けを学校などでしていただけたら良いと思います。それには指導員の数が、もう少し増えないと大変かと思いますが。

#### ○松村学校教育課長

学校でも6年生の参加については、話しをしてもらっています。

指導員につきましては、世代交代と言いますか、経験の浅い方も含めて若手教員が増えてきています。出来るだけたくさんの協力をいただけるよう、各学校でも呼びかけてくれていますので、引き続き伝えていきたいと思っています。

## 報告第 53 号 平成 22 年度～27 年度 生徒指導状況まとめ

### ○谷口委員長

報告第 53 号 平成 22 年度～27 年度 生徒指導状況まとめを、事務局から説明をお願いします。

### ○松村学校教育課長

報告第 53 号につきましては、平成 22 年度～27 年度 生徒指導状況まとめについてです。

各学校における生徒指導状況を集約しまして、本市における問題行動の動向を捉えて、今後の指導に役立てるために資料を作成しました。暴力行為件数、いじめ認知件数、不登校人数について、市内の小学校と中学校別に記載し、グラフ化しています。

小学校の暴力行為件数が、平成 24 年度、25 年度で数が多くなったのですが、26 年度で減少し、27 年度では若干増えてきています。いじめ認知件数につきましても、24 年度、25 年度がピークで、26 年度に減少し、27 年度に増えています。不登校の人数につきましては、24 年度がピークでしたが、また 27 年度に増えてきています。

中学校の暴力行為件数は、22 年度に多かったのですが、一旦減少して 26 年度で増加し、27 年度で減少しています。いじめ認知件数につきましては、小学校と同様に 24 年度、25 年度が多く、26 年度に減少し、27 年度に若干増えています。不登校の人数につきましては、24 年度以降、200 名を超えて、25 年度から 27 年度は 250 名前後となっています。

参考までに全国と大阪府との比較するときの一つの目安になる、千人当たりでどれくらいの人数で発生するかを示す“千人率”というものがあります。小学校の暴力行為ですが、25 年度の岸和田市 19、全国 1.6 で、随分岸和田市は高くなっています。26 年度の岸和田市 13、全国 1.7 です。大阪府は全国の中でも非常に高いと言われていますが、大阪府の 25 年度 3.1、26 年度 4.3 で、岸和田市の暴力件数は非常に高くなっています。いじめの認知件数で言いますと、全国と比べると岸和田市は非常に少なくなっています。26 年度で言いますと、岸和田市 1、全国 18.8 になっています。不登校ですが、26 年度で言いますと、岸和田市 5.3、全国 4 で、不登校の数については、全国的にも同じような傾向があります。

中学校についても同じような傾向があり、暴力行為の 25 年度の岸和田市 45.7、全国 12、26 年度の岸和田市 53.5、全国 10.8 で、おおよそ 4～5 倍多くなっています。いじめ認知件数ですが、25 年度の岸和田市 4.8、全国 16.5、26 年度の岸和田市 3、全国 15.9 で、岸和田市が少なくなっています。不登校の数については、全国と比べると岸和田市が割合が高くなっています。26 年度の岸和田市 40.8、全国 28.9 となっています。

学校現場でも組織的に対応、あるいは関係機関と連携しながら課題の改善を図っているところですが、残念ながら数字的に劇的な改善が出来ているかという点、まだ途上で他にどのような方策があるのかを考えているところです。

### ○河野委員

暴力行為で内容的にどういうものが暴力ということになるのか、器物破損でもどういうことがそれに当たるのかが分かりにくいので、教えていただきたい。

○松村学校教育課長

項目として、教師に対して児童・生徒が暴力を振るう“対教師暴力”、学校内で生徒同士で相手に危害を加える“生徒間暴力”、校外で暴力を振るう“対人暴力”、何かを壊す“器物破損”をひっくるめて『暴力行為』ということで計上してもらっています。

○河野委員

“対人暴力”は、校外でのことのみ、ということですか。

○松村学校教育課長

そうです。

○河野委員

“器物破損”は、校内だけですか。

○松村学校教育課長

他にもありますが、主に学校内のものが多いのが現状です。

○河野委員

聞き取りで集計されるのですか。

○松村学校教育課長

国の調査もありますし、学校からの調書で項目に数字を挙げてもらって、月々の中でも挙げてもらっています。

○中野委員

今回、資料をいただきましたが、いつもに比べると不親切であったという感じがします。口頭で全国や大阪府のデータを教えてもらったのですが、もらった資料に入れるか、または別表として資料でいただければ、より分かりやすかったと思っています。全国や大阪府と比較した分析結果や問題点の指摘、改善策まで挙げてもらえたら良かったと思っています。

各項目について、暴力行為が全国の小学校で過去最多になった、大阪府では全国ワーストワンクラスだと既に出されています。暴力行為については、しっかりとした指導をしていただいているのですが、毅然とした対応が必要でひるんでしまうと学級崩壊などに繋がってしまいます。学校と言えど社会一般のルールを適用し、必要であれば警察の協力を求めるようなこともあると思います。

いじめについて、各学校で“いじめ防止基本方針”、“いじめ問題対策委員会”などで対応してもらっていますので、今のところ重大事態は推移していません。いじめ発見の手掛かりが一番大事なところだと思いますが、既に報告を受けていますアンケートの実施。本人からの訴えや教員による発見、こういうことが成果を上げているのだと思っています。

不登校については全国的に増加の傾向があり、本市の小・中学校では全国と比較すると上回っているということです。特に小学校での不登校というのは、中学校にそのまま繋がってしまったり、中1ギャップとなってさらに大きくなってしまいますので、出来るだけ早い段階、小学校での早い解決を願いたいと思います。

### ○松村学校教育課長

いじめのことですが、“積極的な認知”ということで、学校へ発信しています。今まで、“いじめの芽”という表現がありましたが、そういう表現は全ていじめだと、軽微なものも捉えて、早くケアしていくということを行っています。それで、昨年よりも少し件数が増えているのかと捉えています。認知するだけではなく、解消率も必要だと思っていますので、学校にも発信して取り組んでいるところです。ご指摘については、また考えてやっていきたいと思います。

### ○谷口委員長

数字の信頼性では、報告が上がりやすいところと上がりにくいところでは数値に差が出て、基準が曖昧なところがあると感じています。小学校で24年度、25年度の数値が大きくなっていて、その1、2年後の中学校の数字に連動していないので、対応がしっかりできたのか、暴力として上げるかどうか主観的なところがあったのかと思いました。警察の話もありましたが、「現場の先生は生徒への思いが強く警察を入れるのを躊躇してしまう」、「警察が入った後、更生する可能性が高い」と警察から聞いたことがありましたので、そういうことを感じながら聞いていました。

## 報告第54号 第70回大阪府総合体育大会・泉南地区大会成績及び中央大会出場について

### ○谷口委員長

報告第54号 第70回大阪府総合体育大会・泉南地区大会成績及び中央大会出場について、事務局から説明をお願いします。

### ○藪スポーツ振興課長

報告第54号につきましては、第70回大阪府総合体育大会・泉南地区大会成績及び中央大会出場についてです。

泉南地区大会の結果、卓球や軟式野球、バドミントンなどの競技が、これから始まる中央大会へ出場します。

### ○中野委員

暑い中、頑張ってもらっています。昨年と同じ様な結果かと感じています。種目によっては準優勝でも出場できたり、優勝しか出場できななかったり、種目の出場チーム数によって違いがあるのですか。

### ○藪スポーツ振興課長

ちなみに、柔道や剣道、弓道のように予選もなく出場できる競技もあれば、参加数の多い競技につきましては準優勝でも出場できないと判断しています。

### ○谷口委員長

オリンピックイヤーで、東京オリンピックも近付いているので、ますます盛り上がっていくことを祈りたいと思います。

## 報告第 55 号 岸和田市スポーツ推進計画策定について

### ○谷口委員長

報告第 55 号 岸和田市スポーツ推進計画策定について、事務局から説明をお願いします。

### ○藪スポーツ振興課長

報告第 55 号につきましては、岸和田市スポーツ推進計画策定についてです。

4 月にもご報告させていただいていますが、今後の方針として市民意識調査、庁内で連絡会議を設置して議論を進めるため要項を制定させていただきました。その中で、大阪体育大学教育学部 金子准教授、関西大学人間健康学部 涌井教授の 2 名をオブザーバーとしてご参加いただき、先日、第 1 回目の会議を開催しました。

市民意識調査は、市民 4,000 人を対象にして実施する計画です。18 歳以上を対象に考えていましたが、庁内連絡会議で「学校も入れた方が良いのでは」と提案がありましたので、同じ設問ではなく、涌井教授が携わったことのある事例を参考にして作らせていただき、一定規模の学校をサンプル校としてご意見をいただこうと考えています。また、障害者関係、公園関係、学校関係などの方のご意見をいただいたうえで進めていきたいと考えております。秋ごろを目途にアンケートを送付、まとめて、来年度、アンケートを元にプロポーザル方式でまとめていきたいと思っています。

### ○中野委員

推進計画策定に市民意識調査を計画に反映させていくことは大切なことだと思います。調査内容ですが、良く考えられ、適切だと思います。細かいところですが、誤字、脱字、問い番号のずれがあります。

### ○藪スポーツ振興課長

再調製させていただき、固めていきたいと思っています。子供の調査票については、固まり次第、ご報告させていただきたいと思っています。

### ○中野委員

後の方の文章で、障害者の表記で“害”と“がい”が混在していて、大阪府は平仮名を使っているが、どちらかに統一した方が良いと思います。

## 報告第 56 号 企画展『南三陸町復興支援展～南三陸勝手に生物調査隊！～』の開催について

### ○谷口委員長

報告第 56 号 企画展『南三陸町復興支援展～南三陸勝手に生物調査隊！～』の開催について、事務局から説明をお願いします。

### ○小堀郷土文化室長

報告第 56 号につきましては、企画展『南三陸町復興支援展～南三陸勝手に生物調査隊！～』の開催についてです。

会期は、9 月 10 日（土）から 10 月 10 日（月）です。今回の企画展につきましては、かねてから自然資料館が、自然史系博物館や博物館友の会と交流している中で、東日本大震災に伴う復興

支援の活動をしていまして、自然資料館だけではなく様々な他館との交流の中で、調査をした生物標本や現地での調査風景の写真などを展示することで、今後の復興支援に取り組む来館者の意識や興味を高める取組みに結びつける目的です。周知方法は、広報きしわだ9月号、ホームページに掲載予定です。

#### ○中野委員

全国的な研究会で聞いたことですが、東日本大震災で被害の遭った文化財の修復については文化庁の予算が適用され、博物館の修復については国の予算の裏付けがないということでした。そこで、津波被害に遭った博物館に対して、全国の博物館や研究機関が協力のネットワークを作って、専門的な分野を生かした支援活動の輪が広がったということです。例えば、標本のラベルが剥がれたり、汚れたりして内容物が分からない場合、各地の専門家がいる大学や博物館などに問合せ、貴重な標本を復活させたということです。今回の展示も少し形態は違いますが、この流れを汲んだ取組みかと思います。是非、拝見させていただこうと思っています。

#### ○谷口委員長

募金箱の設置はするのですか。

#### ○小堀郷土文化室長

今のところ考えていません。

### 報告第57号 第29回濱田青陵賞授賞式及び記念シンポジウムの開催について

#### ○谷口委員長

報告第57号 第29回濱田青陵賞授賞式及び記念シンポジウムの開催について、事務局から説明をお願いします。

#### ○小堀郷土文化室長

報告第57号につきましては、第29回濱田青陵賞授賞式及び記念シンポジウムの開催についてです。

9月22日(木)の秋分の日午後1時から、マドカホールの大ホールで行います。内容につきましては、今回、授賞されました京都大学 下垣 仁志先生のご講演をいただいたあと、例年どおり記念シンポジウムで5名の先生方から話を伺う形を取っています。司会については、朝日新聞大阪本社編集委員の今井氏をお願いしています。応募方法ですが、9月1日から受付開始で、往復はがき、またはメールで申込みをいただきます。定員は500名ですが、今まで500名を超えることはありませんでしたので、今回も500名の範囲内で来館いただくと考えています。周知方法は、広報きしわだ9月号、ホームページ、朝日新聞に掲載、過去の参加者にダイレクトメールで案内する予定です。

#### ○野口委員長職務代理者

今回、記念シンポジウムのテーマが「モノがつなぐ 人をつなぐ」とあまりにも漠然としていて、どんな内容になるのか分かりにくいと感じました。

### ○小堀郷土文化室長

時代からいろんな遺物が出てきたり、そういう歴史のものとか、人の生業というか生活をずっと繋いできている、という講演の主旨になってくると思いますが、テーマだけではなかなかイメージしにくいので、何かサブテーマを付ければ良かったかと思っています。

### ○中野委員

記念講演とシンポジウムで、新しい事実や興味深い話を聞かせてもらっています。去年も記念シンポジウムに参加されたパネリストの先生から「岸和田城の石垣の鏡石は江戸時代に築かれた時のままです」と貴重な話を聞かせていただきました。今年も新しい話が聞けるかと期待しています。

### ○谷口委員長

たくさんの方で溢れるくらいになれば良いと思います。

報告は以上です。他に何かありませんか。ないようですので、議案の審議に移ります。

## 議案第 40 号 岸和田市教育委員会の点検・評価報告書について

### ○谷口委員長

議案第 40 号 岸和田市教育委員会の点検・評価報告書について、事務局から説明をお願いします。

### ○大西総務課長

議案第 40 号につきましては、岸和田市教育委員会の点検・評価報告書についてです。

平成 28 年度岸和田市教育委員会の点検・評価報告書の案がまとまりましたので、ご審議いただきたいと思っています。6月に第1回評価委員会を開催し、各担当課がそれぞれの事業について点検・評価したものをシートにまとめ、評価委員の方々に意見をいただきました。意見によりシートの修正をし、考え方を示すものについては第2回評価委員会において教育委員会の考え方として説明し、点検・評価報告書をまとめました。この報告書を9月議会で報告したいと考えています。53 ページから委員の主な意見とそれに対する教育委員会の考え方を示させていただいています。事前に送付させていただいていますので、本日ご意見等いただき、最終、案を取って議会へ報告いたします。

## 《項目No.2》

### ○野口委員長職務代理者

8 ページ「5. 平成 27 年度の取組み内容」で、“新潟大学と連携し”と記載されていて、何故、岸和田から遠い新潟大学と連携なのか、ということにならないかと思いました。“大学と連携し”とすることは出来ないのでしょうか。突然、“新潟大学”と出てくるので、何の勉強をしているのか、新潟大学との関係が分からないと唐突な感じがしました。

### ○阪本人権教育課長

研究の助成金のこともありますので、名称を入れて記載しています。



## 《項目No.1》

### ○中野委員

学力向上に関して、学力向上支援事業でいろいろ実施されていて、教員の意識も高まっています。今まで、いろいろ取り組んでいただけていますが、目を見張るような著しい成果は残念ながら上がっていません。特に児童・生徒に対しての主体的な学習やアクティブラーニングが進められています。さらに教員の意識改革に基づく積極的な教科指導、先日の教育フォーラムのような教科指導に対しての研究開発の推進、アクティブティーチングというような考え方を強調してもらえないかと思っています。教育は人なりと言うように、児童・生徒は先生の背中を見て、一層学習意欲が高まると思いますので、アクティブティーチングというような先生の積極的な学習指導を期待したいと思っています。

## 《項目No.3》

### ○谷口委員長

項目ごとに確認していきます。

昨年の「7. 今後の課題・方向性」で、“生徒の減少が予想される”とありましたが、残念ながら定員割れになりました。広報エリアの見直しや広報活動を充実する今後の方向性が示されていますが、是非、お願いします。

### ○中野委員

10 ページ「6. 評価」で取り組み後の効果で進路状況や各種検定合格者数が分かりやすく示されています。別の機会でも良いので、これらの数値目標を挙げてもらえないかと思っています。それに対して、達成に向けての努力をしてもらったと思います。産業高校の学校Web ページで、学校協議会、学校教育自己診断をきちんと掲載していただいています。全日制では学校教育自己診断において、教育活動に対する生徒の肯定的な意見を80%以上に設定しているのは、素晴らしいことだと思います。既に達成している項目もあります。学校教育自己診断について、以前から言ってきました教員の意見を加えてもらって、27年度から教員、生徒、保護者の三者の意見が揃ったということです。このことに関連して、相談体制や分かりやすい授業づくりには、教員は十分に取り組んでいると捉えているが、生徒はそうでないと捉えているというギャップがあるということが新たに認識できたと思います。

定時制では、保護者アンケートについて非常に協力的で、ほぼ全員の提出があったということは有り難いことです。校長がWeb ページで様々な産業高校の様子を紹介しています。これは大変な努力だと思います。これに加えて、学校の内外に一番大切な学校経営計画を示してはどうかと思います。どのような学校を目指しているのか、それをどんな方策によって実現するのかを、生徒、保護者、教職員、地域住民に学校教育への理解を求め、深めることが必要ではないかと思っています。生徒の確保には広報活動も大事ですが、早急には出来ないと思いますが、他の実業高校と共に入試時期を3学科揃って、特別入試に戻すような申し入れを教育庁へ働きかけてはどうかと思っています。

《項目No.5》

○谷口委員長

14 ページ「7. 今後の課題・方向性」で“改善して継続”ということを示されていて、“予算の対応が非常に難しい”とあって、現実的にそうだと思いますが、この生徒指導のサポートは非常に重要なことでもありますので、優先順位を上げるような形で検討していただければと考えています。

○中野委員

先生方の負担を軽くする意味からも、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を推進していただきたいと思っています。大学の連携もあると思います。

《項目No.7》

○野口委員長職務代理者

民間委託を9校していて、「7. 今後の課題・方向性」で“現状のまま継続”ですが、まだ拡げていく方向ですか。

○山本学校給食課長

順次進めていきます。

○野口委員長職務代理者

順次進めるとのことですが、全校まではしないということですか。

○山本学校給食課長

長い期間はかかりますが、全校対象です。

○小山教育総務部長

給食調理員の退職不補充で調理員が減っていけば、民間委託になるという方針です。

《項目No.10》

○中野委員

スキップロープチャレンジや5分間走チャレンジは、ホームページで記録が掲載されていて、子供たちが非常に関心を示す良い工夫をしてもらっていると思いました。子供たちがスポーツへの興味、関心を更に高めるために、連携関係にある大阪体育大学の学生にスクールボランティアとして来てもらって、模範演技や実技指導をお願いできないものかと思います。

《項目No.13》

○中野委員

以前説明を受けたときは、“PFI方式”となっていました。今回“PPP方式”になっていますが、何か違いがあるのですか。

この方式では設計業務、施工業務、維持管理業務を一括して民間の特別目的会社に発注するというので、この際に国庫補助が受けられると聞いていますが、どの程度の国庫補助になります

か。

民間の資金調達をするとコストが高いため、市債の活用が必要なのかと思います。機具は一斉購入・設置と言うことですので、支払いがかなり大きくなると思いますので、一度に決済するのにか心配しています。

この方式は、良いことばかりではないようで、例えば、官民の垣根が低くなって癒着が起こる可能性、市場原理の導入ですが参入業者が少ないと、実質、独占企業が出る可能性があります。さらにこの方式では、事業費の削減が出来ると言われていますが、大幅なコストダウンをしても民間企業の利潤追求に利用されると意味がなくなってしまいます。こういうことが指摘されていますが、これらの点の解消について、どう考えているのか分かる範囲で教えてください。

○山本学校管理課長

“PFI”と“PPP”の違いですが、“PPP”とは官民連携事業でして、その中に“PFI”や“リース”などが含まれています。行政が工事の設計、発注をして工事をする従来方式が良いのか、それとも“PPP”による官民連携方式が良いのか、検討している段階です。検討の中には何社が手を挙げるのか、またコスト面などの全てについて調査中です。その結果“PPP”が良い、となれば、その方式で行いたいと考えています。従来方式ですと、全ての小・中学校、幼稚園で夏休みに一斉工事をするのは不可能ですので、現在、“PPP”方式で検討しております。

○中野委員

国庫補助については、どうなっていますか。

○山本学校管理課長

補助率3分の1になります。

《項目No.14》

○谷口委員長

32 ページ「6. 評価」の「「発達障害」というテーマ〜」の文で、かなりたくさんの方が参加されたという感じがします。そのようなセミナーに対してのニーズがある感じがしますが、そういう理解でよろしいでしょうか。

○西尾生涯学習課長

そういう理解でよろしいかと思います。今までよりポイントを絞り込んでいます。本来ならやってみても人が集まらないが、少しずつ変わりつつあるのかと思います。今年度も検討中ですが、ポイントを絞り込んだ形で、興味ある方を集めたいと思っています。

○谷口委員長

良いものをしているのに人が集まらないことも散見され、もったいないという感じもしますので、何かニーズのあることを考えて、是非、お願いします。

## 《項目No.21》

### ○中野委員

45 ページ「4. 取組みの成果（効果）目標」で設定されています数値の年間入場者数が少し届きませんでしたが、それ以外の多くの項目で結果が目標を上回っていました。特に特別展では、地層の断面のレプリカなど、分かりやすい工夫がしてありました。また、実際の地震計やタブレット端末を用いた地震計の展示、古文書による過去の地震の記録など見応えがありました。いつも思うことですが、展示スペースが狭いのはどうしてもなく残念に思います。企画展の“たまごとにわとり”については、これだけの標本をよく集められたと感心しました。自然資料館を中心に開発された“チリメンモンスター”ですが、広く知れ渡っていて、人気が定着した感じがしています。自然資料館のこれらの活動によって、自然の大切さや保護の意識が高まること、大変心強く思っていて、ますますの発展を願っています

### ○谷口委員長

53 ページ以降の「評価委員会委員の主な意見と教育委員会の考え方」について、何かご意見ございますか。

ないようですので原案のとおり承認します。

## 議案第 41 号 平成 28・29 年度のスポーツ推進委員の委嘱について

### ○谷口委員長

議案第 41 号 平成 28・29 年度のスポーツ推進委員の委嘱について、事務局から説明をお願いします。

### ○菰スポーツ振興課長

議案第 41 号につきましては、平成 28・29 年度のスポーツ推進委員の委嘱についてです。

4 月に審議、承認いただきましたが、定員 60 名に対して 59 名の状態でしたので、教育委員会として 1 名の方を推薦するものです。この方は、こども会関連の役員をずっとしていただき、いろいろな活動にご尽力いただいています。承認いただきました後、9 月に委嘱式を予定しております。

### ○谷口委員長

この方は非常にご活躍いただいています。異議がないようですので原案のとおり承認します。

## 議案第 42 号 補正予算について（事業費補正）

### ○谷口委員長

議案第 42 号 補正予算（事業費補正）について、事務局から説明をお願いします。

### ○小堀郷土文化室長

議案第 42 号につきましては、補正予算（事業費補正）についてです。

ご寄附をいただきましたので、平成 28 年第 3 回定例市議会に歳入・歳出補正予算について審議いただくものです。7 月 28 日に岸和田市久米田池土地改良区理事長 池宮 甚與茂様、久米

田池をまもる会会長 池宮 甚與茂様と同じ方ですが異なる団体から、それぞれ 250,000 円ずつ合計 500,000 円を久米田池説明板作成委託費に充当のためご寄附をいただきました。昨年度 10 月に、久米田池が世界かんがい施設遺産に登録されたことを記念して、久米田池の歴史や文化を多くの方に周知したい思いが一致し、今回、いただきましたご寄附を委託料に計上して、説明板を作成したいと考えています。

**○谷口委員長**

何かご意見ございませんか。ないようですので原案のとおり承認します。

**議案第 43 号 補正予算について（事業費補正）**

**○谷口委員長**

議案第 43 号 補正予算（事業費補正）について、事務局から説明をお願いします。

**○玉井図書館長**

議案第 43 号につきましては、補正予算（事業費補正）についてです。

ご寄附をいただきましたので、平成 28 年第 3 回定例市議会に歳入・歳出補正予算について審議いただくものです。

7 月 21 日に岸和田ライオンズクラブ会長 永田 秀俊様から、子どもの読書絵本読み聞かせ講座の講師謝礼に充当のため 180,000 円を、7 月 26 日に山本 清治様から、図書購入に充当のため 500,000 円を、8 月 3 日に一般財団法人 永井熊七記念財団代表理事 永井 一夫様から、図書購入・講演会等講師謝礼に充当のため 500,000 円をそれぞれご寄附いただきました

**○谷口委員長**

非常に有り難いことです。

**○中野委員**

毎年、ご寄附いただき、図書の充実に貢献していただいて非常に有り難いです。

**○谷口委員長**

永井熊七記念財団から毎年ご寄附いただいておりますが、目的に“講演会等講師謝礼”とありますが、何か講演会に対する御意向があるのでしょうか。

**○玉井図書館長**

20 年以上ご寄附をいただいております、ほとんどを図書購入に充てていました。ここ最近の読書離れについて考えておられ、図書館と市民をつなぐ催し物など、広く市民の方に図書館へ足を運んでもらう機会になるような勉強会などが出来ないのか、という考えもございました。そこで、いろいろな勉強会などを行っている団体とリンクさせていただき、500,000 円のうち 100,000 円を先生に来てもらう講演会や勉強会の講師謝礼に充当したいと思っています。昨年度は 4 回、今年度は 3 回を予定しています。

**○谷口委員長**

ご寄附いただきました方の意向も踏まえまして、活性化する企画をお願いします。

他に何かご意見ございませんか。ないようですので原案のとおり承認します。

## 議案第 44 号 岸和田市立学校の府費負担教職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規則の一部改正について

### ○谷口委員長

議案第 44 号 岸和田市立学校の府費負担教職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規則の一部改正について、事務局から説明をお願いします。

### ○大西総務課長

議案第 44 号につきましては、岸和田市立学校の府費負担教職員の勤務時間、休日、休暇等に関する規則の一部改正についてです。

岸和田市立小学校、中学校で勤める先生の勤務時間や休日、休暇については、この規則で定めていますが、元になる大阪府で定めている規則に準じて岸和田市で定めています。大阪府が規則を改正し、9月1日から施行を予定していますので、今回、岸和田市の規則改正について審議をお願いしますものです。

改正の内容は、第4条の2で定められている早出や遅出の勤務時間の特例対象の“保育所等への送迎”を“就学前の子供の養育”と、子育てについて認める内容で9月1日から施行されます。

また、第4条の2第2号で、28年4月から小中一貫校の義務教育学校という定義が出来ましたが、今まで“小学校に就学している子のある職員”としていたものを、“義務教育学校”や“特別支援学校の小学部”に就学している子の職員と対象の追加をしています。この部分については、4月に“義務教育学校”が出来ていますので、その前に規則改正するべきでしたが失念しておりました。4月から8月末までに、第4条の2第2号の対象となる相談や取得希望者はいませんでしたので、影響はなかったと考えています。今回、勤務時間の特例対象の見直しと併せて9月1日施行での規則改正をしたいと考えています。

### ○谷口委員長

何かご意見ございませんか。ないようですので原案のとおり承認します。

### ○谷口委員長

全ての案件が終了しました。これをもちまして本日の定例教育委員会会議を閉会します。

閉会 午後3時45分

本会議録に相違ないことを認め署名する。

委員長

署名委員